

東京大学百年史編集室は昭和50年4月に、『東京大学百年史』の通史および資料編の編集ならびに執筆、各部局との連絡・調整等を担当するものとして発足した。

編集室におけるこれまでの事業の概要を以下に年度別に記す。

昭和五〇年度

〈資料収集〉

○石井勗氏聴取り

石井氏は学生主事、庶務課長を経て昭和20年より25年まで事務局長をつとめた人。12月8日開催の「東大百年史研究会」において在職時代全般にわたる体験談を講演。翌年2月28日、3月15日の2回、学生主事時代（昭和3年から12年まで）について聴取りを実施。

○加藤弘之文書の寄託

明治十年代の東京大学総理、帝国大学第二代総長加藤弘之の文書を、10月11日遺族より編集室に寄託。日記、出納帳、草稿等約90点および蔵書約60点。大久保利謙百年史編集委員の尽力による。

〈編集基礎作業〉

○学内諸資料調査

夏期休暇中を利用して、附属図書館所蔵の「五十年史資料」を調査・整理の上、百年史編集室に借用。同時に事務局庶務部保存の資料を調査・整理。6月17日〜7月16日、史料編纂所所蔵の渡辺洪基文書を調査・整理し、10月28日、目録を完成（印刷は52年2月）。11月、附属図書館所蔵の外山正一関係文書の調査に着手、51年2月に一応整理を終え目録を作成（印刷は52年2月）。

○編集要綱の作成

編集室の発足と同時に編集要綱の原案の作成を始め、百年史編集委員会、同小委員会、百年史編集室会議等の検討を経て9月29日の百年史編集委員会に於て決定。

○年表基本カードの作成

昭和49年度の百年史編集委員会の企画に依り4月よりカードの形式を検討、6月完成。これを用いて、「総合年表」作成の基礎として『東京帝国大学五十年史』上・下、岩波『近代日本総合年表』中の重要項目をインデックスカード化。

〈研究成果の発表〉

○展示会の開催

12月9日より11日までの3日間、総合図書館集

会室において、東京大学百年史史料展示会（草創期の東京大学）を開催。旧総長加藤弘之、渡辺洪基、外山正一の自筆草稿、日記等を展示。目録「草創期の東京大学」を編集、配布。

○「東京大学百年史略年表（稿）」の刊行
百年史編集の手掛りとして総項目約五百を目的に作成。附録として総長一覧、学部学科・講座表、その他を併載。B5判48ページ。

○「東大百年史編集室通信」
51年2月25日発行の「学内広報」第三一五号より5号毎に掲載を開始。資料紹介、部局史編集状況等をおもな内容とする。

昭和五一年度

〈資料収集〉

○内田祥三文書の寄託

第一四代総長（昭和18〜20年）内田祥三所蔵文書を遺族より当室に寄託。5月20日より4回にわたり、工学部長、総長時代の会議書類等、ロッカ17本分を引取る。

○平賀家所蔵文書調査

第一三代総長（昭和13〜18年）平賀譲の遺族宅を1月18日、4月1日の両日訪問。アルバム、新聞切抜帳、書簡類を借用し複写。複写版を当室に保管。

○井上哲次郎文書の寄託

明治・大正期の文科大学教授、井上哲次郎の日記等86点を、5月8日、7月14日の2回にわたり遺族より当室に寄託。大久保利謙委員、香原一勢氏の尽力による。

○写真資料収集

写真集『東京大学の百年』編集のため国立国会図書館、学士会館、東京工業大学附属図書館、法務省図書館、財団法人野間教育研究所、朝日新聞社、共同通信社、本学施設部、新聞研究所図書館、附属図書館（総合図書館）等を調査し、本学各部署、卒業生、およびその遺族、鳥畑建築写真事務所等の協力により、複写写真を中心に学内外の東京大学関係写真、地図など千数百点を収集。8月と11月には本郷・駒場両キャンパスの航空写真を撮影。

○聴取り調査

石井勲氏 前年に引き続き、4月5日、10月1日、10月25日、翌年3月18日の4回、おもに昭和17年以降、同氏が庶務課長、事務局長を歴任して25年に退官するまでの体験について。

鶴田酒造雄氏 7月8日実施。会計課長、経理部長を経て昭和36年より41年まで事務局長。退官後国立大学協会事務局長。おもに国大協と本学の関係について。

斯波義慧氏 10月4日実施。学生主事、学生部

長を歴任、昭和37年退官。おもに戦後の学生問題について。

二宮永蔵氏 10月30日実施。大正15年より本学に勤務し昭和34年より40年まで庶務部庶務課長。庶務部保存文書の編成を中心に。

〈編集基礎作業〉

○施設部所蔵の写真資料調査

7月から10月にかけて旧職員田中二郎氏の協力を得て施設部所蔵の施設写真を調査。大正13年より昭和28年までの施行写真の写真帳約五百冊。部分的にはガラス乾板も現存。

○東京大学（帝国大学）新聞に関する調査

東京大学新聞は大正9年、最初の大学新聞として創刊。52年11月末現在通算で二二四七号を刊行。4月初旬から6月まで同新聞社、本学新聞研究所新聞資料センター、経済学部における旧号所蔵状況を調査する一方、他大学、官公立機関にも所蔵調査を依頼。

○評議会議題目録及び議題表の作成

11月より庶務部保管の評議会記録をもとに、開催日ごとの議題目録、年度ごとの議題表の作成に着手。52年12月現在、昭和52年4月までをほぼ終了。

〈研究活動〉

○研究テーマ

昭和52年初頭より室員が基礎文献学習のため「勉強会」を組織。ここから「大学諮詢会」、「大正期の大学令改正問題」、「戦時下の東京大学」、「南方自然科学研究所」ほかの諸テーマの研究に進む。

○「東京大学史料目録」の刊行

52年2月、東京大学史料目録153として「渡辺洪基史料目録」、「外山正一史料目録」、「加藤弘之史料目録・井上哲次郎史料目録」を刊行。B5判、各33、13、20ページ。

昭和五二年度

〈資料収集〉

○聴取り調査

本紀要掲載の「南方・立地自然科学研究所の設立と廃止」の研究に関連し、次の諸氏にその経緯並びに当時の状況に関する一連の聴取りを行った。

石井勲氏 52年3月18日実施。（同氏については50・51年度聴取りの項参照。）

扇一登氏 52年3月29日実施。元海軍省勤務。昭和16年頃、海軍省調査課員として本学の南方資源研究会成立に関係をもつ。

三浦高義氏 5月4日実施。東京大学名誉教

授。三浦伊八郎教授（元南方及び立地自然科学研究所所長）の長男。

南亭二氏 5月21日実施。東京大学名誉教授、現筑波大学教授。農学部の一大学院生からみた、当時の雰囲気について。

末広恭雄氏 5月21日実施。東京大学名誉教授。元南方及び立地自然科学研究所員。

若林勲氏 7月29日実施。東京大学名誉教授。元立地自然科学研究所員。特に同研究所の閉止に至る過程について。

〈編集基礎作業〉

○「通史編」目次案の作成

7月、五編十四章よりなる「東京大学百年史通史目次」（第一次案）を作成、編集室会議で検討するとともに百年史編集委員会（7月4日）、同小委員会（6月27日）において配布。

○「資料編」構成案の作成

7月、「百年史資料編の構成と収録資料」を作成、百年史編集委員会および同小委員会において配布。資料、統計、一覧図表、年表で構成。

〈研究活動〉

○研究テーマ

前年度からの研究テーマに「大学院制度の変遷」を加える。紀要論文完成後、新たに「東京大

学前史」「東京大学における大学制度関係委員会」「明治十年代の大学制度」「東京大学諸規則」「戦前自治事件」等の研究に着手。

○「東京大学の百年」の刊行

東京大学創立百年記念式典用の写真集作成のため、51年5月、「東京大学の百年」編集委員会が組織され、編集室はこの編集に全面的に協力。52年4月12日刊。変形判（24.7cm×26.2cm）、一二〇ページ。収録写真数一五四。略史、略年表、付表、図を収録。（東京大学出版会より公刊）

○「東京大学史紀要」創刊

53年2月、百年史編集室研究報告誌（定期刊）として創刊。B5判一七三ページ。

〈その他〉

○学内広報創立百年記念特集号への協力

「学内広報」第三六二号（東京大学創立百年記念特集号）の執筆に編集室として協力。「百年の歴史より」2点、「百年トピックス」4点。4月12日刊。

○「東大百年史編集室通信」

52年12月末現在、通算で16回掲載。
○百年史編集室所蔵図書

52年11月末現在、所蔵図書は一〇一九冊、うち購入図書九二九冊、寄贈図書九〇冊。

編集後記

東京大学百年史の編纂に協力している多くの組織・個人間の連絡あるいは意志疎通のために、ニュースを発行しようという意見はかなり前から出されていた。百年史関係のニュースが「学内広報」に掲載されるようになったのは、昭和五十一年二月（第三二五号）からであって、これによって一応、情報交換の場がともかくも与えられることになった。

他方、編集室を構成する新進研究者の作業は着々と進行し、その作業成果を何らかの形で公刊することの必要もまた痛感されるようになった。編集室での仕事は目下の所、基礎的資料の収集・調査の域を多く出てはいないが、それでも収集された資料を紹介し、整理された事実を報告し、考察・吟味を経た歴史叙述を発表することは、現在、同様に百年史編纂に努力しておられる方をはじめ、広く大学史研究者あるいは大学史に関心を抱いておられる各位に対して、極めて有意義であると考えられた。

本紀要の刊行が具体化したのは昭和五十一年末ごろからであって、以後、室員ならびに関係諸氏の協力を得て、漸くここに創刊される運びとなった。創刊号の内容は、上述のように、今編集室で作業を進めている若い研究者の論考が中心となった。これらの論考は近い将来執筆されるはずの百年史の記述に、直接あるいは間接に活かされるは

ずである。

　　うまでもないことであるが、本紀要は東京大学史に関する研究成果を発表する場として、室員以外の方々の論考も当然期待している。各部署史編纂の中から生れた考察、百年史編纂作業の外で行われた東京大学史研究などがやがて本紀要に登場して、誌上が一層活潑になることを望んでいる。二号以後は、執筆もより広い範囲の方々をわづらわすことを考えているので、御協力をお願いする次第である。

　　また、これまで刊行されてきた『東京帝国大学五十年史』、『東京帝国大学学術大観』ならびに各部署史・包撰校史は、それ自体が多くの資料を提供しているだけでなく、これらの編纂の経験が、現在の編集室における作業にとっての栄養として大いに役立っている。本紀要の役割の一つとして、これらの体験を関係者が共有できるように、これまでの編纂体験の記録を掲載していきたい。

（百年史編集委員会副委員長 稲垣榮三）